

概要 “自然と暮らし”が調和した住みやすいまち

中標津町は、北海道の東部、世界自然遺産の基部に位置する人口約23,000人の町です。武佐岳をはじめとした山並み、広大な酪農風景、少し足を延ばせば世界自然遺産の知床や、阿寒摩周国立公園等の豊かな自然環境に恵まれ、産業では、全国有数の酪農の町でありながら、根室地域の経済の中心として中小の店舗はもちろん近年の大型スーパー等の出店により商業施設も充実しており、田舎すぎても都会すぎてもいない“丁度良い”町です。



特徴 地域の中心として人の集まる交流拠点

札幌・東京都と道東をつなぐ中標津空港や、大型スーパー等の商業施設、地域中核病院である町立中標津病院、国・道の出先機関等の都市機能が集積しているため、仕事や買い物等で訪れる近隣市町村の住民をはじめ、様々な人たちが集まる地域の交流拠点になっており、その商圈人口は定住人口を大きく上回ります。

また、人口移動では20代の若い世代が集まる傾向が強く、毎年多くの20代が転入することで中標津町の人口が支えられており、北海道の中でも特に若い町となっています。

町のPRポイント！

中標津町の高齢化率は全道自治体の中で

4番目に低い

※令和5年度北海道調べ

町のPRポイント！

小売部門の年間商品販売額は全道の町村の中で

第1位！

※令和3年度経済センサスより（市は除く）

企業版ふるさと納税プロジェクト

外国『人財』の誘致と多文化共生

中標津町では令和3年に開校した日本語学校を中心に、多文化共生の推進を図っています。

人口減少・少子高齢化が進行する中、外国人材を地域における貴重な『人財』として地域の活力とするため、海外プロモーションによる外国人材の誘致や、日本語学校留学生に対する生活支援、地域交流を進め、町の活性化を図っています。



中標津町の拠点性の維持・強化

中標津町の強みは近隣市町村の住民等が集まる拠点性であり、人口減少が進む中でこの拠点性を維持・強化する事が重要です。

当町は現在、緑ヶ丘森林公園キャンプ場や、町のランドマークである開陽台の再整備、展示機能を兼ねた郷土資料収蔵庫の建設など、人を呼び込むための取組を積極的に進めています。



D X推進による地域の魅力向上

人口減少が進む中でD X推進による効率化は重要です。当町では、AIドリル等の導入による教育デジタル化や、「書かない窓口」による住民サービスの向上等に取り組んでいます。

また、令和6年4月に根室管内初となるIT専門学校が開校、DX推進の機運が高まっています。



中標津町長 西村 穰より

中標津町は、根室北部の中心的な町であり、近隣市町村の一次産業生産額の消費地として発展してきました。

人口減少が進む中で、いかに人が集まる町にするかが重要であり、企業の皆様と共に取り組んでいきたいと考えています。是非皆様のご連絡をお待ちしています。

